

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792730012		
法人名	特定非営利活動法人 EOS		
事業所名	グループホームあけぼの		
所在地	福島県大沼郡会津美里町下堀字中川46		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php?action_kouhyou_detail
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成25年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 利用者のかたの生活歴・能力を把握し、ただ一日を過ごすのではなくご本人にとって有意義で楽しい一日になるよう支援している。
2. 利用者の状況に合わせた声掛けをしている。
3. 地域に貢献する。
4. 残存機能低下を防ぐよう努力する。
5. ノムダス表を使用し利用者の体調管理を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 法人では昨年同一敷地内に1ユニットのグループホームを開設し、施設運営や利用者への支援及び行事等を合同で実施しており、連携体制が確立されている。
2 事業所では職員の資質向上に努めており、資格取得に対しても支援をしている。さらに職員は各自の日々のケアや行動を振り返るため「自己評価」を行い、質の高いサービスの提供に努めている。
3 職員の異動が少なく、管理者を中心に職員間のコミュニケーションが円滑に図られており、職員の笑顔と生き生きとした対応に利用者の表情も穏やかで明るく、楽しい雰囲気のある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より【癒しと安心】を基本理念とし、基本姿勢を掲げ家庭的な環境の下でその「人」らしく生活出来るよう工夫を凝らし、地域の方達にはホームを理解していただき協力を得て生活している	基本理念のほかに事業所独自の理念には「地域連携」を掲げ、地域の方々と利用者の関係継続を目指している。理念は玄関や事務室に掲示し、全職員で理念を共有し日々のサービスに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方との避難訓練を行ったり、地域の行事運動会、選挙、文化祭に出かけまた施設内行事・誕生会等には「語り部」「踊りうた」「作業療法のお習字塗り絵(毎週)」にきていただいている。	地域の運動会や文化祭等には積極的に参加し交流している。ボランティアの訪問も多く、またヘルパー養成所の実習生も毎年受け入れており、利用者の楽しみとなっている。利用者が作成したティッシュカバーを交通安全協会に寄付する等事業所が地域の一員としての活動を実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	物作りを通して地域の中の一部の方が「あけぼの」で生活していることを理解していただく		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	取り組み内容については其の都度行い、意見感想などお聞きしている。現在事業所内で困っている事例についてもアドバイスももらいながら解決法をみだし、ケア向上に努めている。	運営推進会議は併設の関連事業所と合同で実施している。委員は各分野から選任され、町職員も委員として毎回参加している。会議では広く意見の交換が行なわれており、事業所運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困った事例・疑問があった場合はすぐに相談をし指導アドバイスを受け早期解決するよう取り組んでいる	町職員は運営推進会議に毎回出席しており、町の情報や事業所の状況・利用者の課題などについて相談しながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアについては、全職員充分理解し周知徹底しているが利用者の安全確保の観点からやむを得なく拘束をしなくてはならない事例も起こってくる可能性もあるので対応には慎重かつ検討会も入念に行いたい	全職員が身体拘束の弊害を理解しており、拘束を行わないケアを実践し利用者との信頼関係を築いている。日中玄関の施錠は無く職員の見守りで対応している。「言葉の拘束」についても職員同士で注意し合うなど気を付けて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが十分に把握している。虐待の範囲も広く虐待防止には其の都度申し送りし、入浴・排泄時の身体の観察日常の様子にも心配りできるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度のあることの理解は出来ている。今年度以後見人制度について2件ほど家族から相談を受け、対応した		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分行っている。契約時においても説明をし、疑問点についても話しあい理解していただいている。 問題点が出てきた場合も契約書にのっとり説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、電話連絡の際に利用者の状況説明したり、ご意見・要望等ないか確認している	家族の面会時等を通して意向や希望を聞き取るよう努めている。また、家族アンケートも実施しており、きめ細かに家族の意見を把握しており、家族の意向や希望に沿うサービスは家族の安心にもつながっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	目安箱設置しているがなかなか意見等が反映されない。毎年自己評価を記入し集計して代表者にみてもらい、回答してもらう	管理者は職員一人ひとりと面談して要望や提案を聞き取る体制が出来ている。また、職員はいつでも管理者に意見や要望を伝えられる環境が整えられており、風通しの良い関係を築いている。職員の意見把握には「自己評価表」も活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	良い環境の中でいい仕事ができるよう職員全員で意見を出し合い出された意見には代表者と管理者が討議をしている。努力や実績勤務状況を把握し、給与水準職場環境に反映しつつある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が偏りなく研修に参加できるよう配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームが年に1回合同の交流会を開催し、利用者の親睦、職員の顔あわせ等を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行動パターンを把握し、コミュニケーションを取りながら要望等には常に耳を傾け、安心して生活することが出来る場所であることをわかっていただけるよう関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時、電話連絡の際に利用者の状況説明したり、ご意見・要望等ないか確認している。家族の不安は、いつまでここに居られるのか病気になるたら退居になってしまうのかの心配があるので要望等には常に耳をかむけるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み実調時にホームへの希望・要望をお聞き出来る出来ないことの見極めをし、家族の思いに応えられるように努める		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩として、尊厳を持ち、手を借り知恵を借りながらお互い助けあって生活を出来る関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況を説明し、家族・職員が利用者を理解して統一したケアが出来るよう取り組んでいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会時には行事の案内をお出ししたり利用者の様子を話したり、利用者の作成した手作りの物をお土産にお渡しすると「こんなこと出来るの？」と驚かれ笑顔で帰れる	なじみの理美容院の利用や買物は家族の協力を得て支援しているが、職員が対応する場合もある。友人等の面会もあり、これまでの関係が継続できるよう支援している。訪問者には利用者の手作り小物をお土産として渡して喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、生活環境等を把握し一日を過ごす場所に配慮しているが利用者同士支えあって過ごしておられる方もあり、身近なところで見守りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてから施設へ面会に行ったり、家族を訪問し状況をお聞きしたりしている。入院された場合は病院のケアワーカーとの話し合いにも同席し、家族の不安が少しでも軽減されるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の生活歴や家族状況を把握し利用者からの意向をお聞きすることが困難な時は家族からの聞き取りは常に行い、ご本人の表情や行動から感じ取れるように努める	「ひもときシート」を活用し、利用者の生活歴等を把握しており、さらに日々のケアの中の会話や仕草からも意向を把握している。意向を表せない利用者の場合は家族から聞き取り、利用者本位のサービスに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には担当ケアマネ家族から情報の提供や聞き取りを実施し、本人家族との馴染みの関係を構築しプライバシーに配慮しサービスに至った経緯などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムにはその日で変化があるためその都度声掛けをしたり表情を見たり聴いたりと対応しその日の状況を職員全員が把握出来る様に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中から課題を見つけ、担当職員からの聞き取りを実施し他の職員・家族からの情報を収集し介護計画を作成し、後日検討会を職員を交えて行っている	担当職員と計画作成担当者を中心に全職員が利用者の現状や支援内容を検討し、医師、家族等の意見を組み入れ、利用者の現状に即した介護計画を作成している。また、定期的に「ケース検討会議」等を開催し介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・気づきノート申し送りノートを常備し職員全員が記入し、出勤した職員は必ず確認し利用者の把握業務の連絡等に役立っている。必要に応じてカンファレンスを行い介護計画に反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズを見極めたサービスを提供し従来のサービスに拘ることなく柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のボランティアの方たちと行事の打ち合わせを行い利用者の状況、行事の内容、利用者本意の楽しみ方が出来る様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診記録簿を作成し、医師との連携を密にし、また家族への報告もしながら家族の意思も伝えている	かかりつけ医の受診を支援しており、受診には家族対応を基本としているが、利用者の状況によっては職員が対応している。受診結果は「受診記録簿」を作成し、家族と情報の共有をしている。利用者個々の「事故・緊急時のチェック表」を作成しており、緊急受診時に医師に情報を提供できるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は不在		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の情報は入院と同時に病院に提出し、退院後入居時の生活についてもケアワーカー関係者と連絡を取り合い関係を築いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応については家族も気になるところではあり、家族の意向もお聞きしながら話し合いをしている。一部の家族については医師と連携し方針を共有した	「看取りに関する指針」を作成しており、利用開始時に利用者、家族に十分説明し理解を得ている。利用者が重度化した場合や緊急時には家族の意向を踏まえ、柔軟に対応している。重度化の対応については管理者を中心に全職員で研修を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の状況を常に把握し応急手当の方法を再確認している。また利用者個人の急変チェック表を作成し、救急車対応時に使用している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所のかたには緊急連絡網に登録し協力していただき消防署員の指導のもと避難訓練を行っている	消防署指導による総合防災訓練を併設の事業所と合同で実施している。事業所独自では通報訓練、電源や電化製品の点検、夜間想定避難訓練をしている。緊急連絡網に近隣住民の登録もあり非常時には協力を得られる体制となっている。非常用の食料品等は備蓄している。	災害時に全職員が利用者を安全確実に避難誘導出来るよう数多く訓練を重ねてほしい。特にあらゆる災害時の初期対応についても全職員で検討され、実施されることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを尊重し、入浴・排泄等の介助に際してもプライド・プライバシーの確保に努め介助を行う際の言葉使い、態度、その時々々の状態に合わせた対応をしている	全職員が利用者の人格を尊重し、トイレや風呂への誘導も耳元で静かに声をかけるなど利用者のプライドとプライバシーに配慮した対応をしている。個人情報の保護についても適切に行なわれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のふれあいの中で声掛けを断定するのではなく問いかけをしたり、希望を言いやすいように引き出す努力をし、迷うようであれば候補をあげ自己決定が出来る様フォローするようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の時間の流れや行事などの決まりごとはあるがその方のペースで無理強いすることなく声掛けをしながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者ご自身の希望にあわせているが職員はどのような身だしなみをしているか気づく気持ちを持ち身だしなみを整えることによって心豊かになれる支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の下準備を利用者と一緒に行ない食事は会話を交えながら楽しい時間になるようまた、暖かいものは暖かいうちに提供できるように支援している	買い物から調理までできる方が職員と共に行ない、食事も利用者と職員と一緒に食卓を囲み、お話ししながら楽しい食事風景である。下膳や食器拭き等も利用者が進んで行なっている。週1回麺の日とパンの日を設定しており、外食の機会も多く企画し実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ノムダス表を使用し、排泄・食事・飲水が個人別に記入され状態観察を把握出来る様になっている 下剤対応の利用者には受診の際に医師に提出し指示をいただくのに役立てている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと就寝前の義歯洗浄・除菌を毎日行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ノムダス表を使用し、利用者の一日の状態を把握しているその結果職員で話し合い排泄支援を行っている	「ノムダス表(摂食と排泄)」を活用し利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレでの自然排泄を基本に誘導している。オムツやパット利用を適宜使い分け、自然排泄を誘導することで改善された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ノムダス表から把握できることが多く乳製品も毎日摂取し、野菜類も多くとるように配慮している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴日を設けているが利用者の状態に応じ曜日は決めざるを得ない場合もある。時間帯入浴担当の職員についても希望を聞きながら行っている	利用者の希望を聞きながら入浴支援をしている。週3回以上の入浴を目標にしており、拒否者には担当者や時間を変え誘導している。入浴できない利用者には足湯や清拭で対応している。季節風呂(ゆず湯・菖蒲湯)等を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者本人にまかせている。一日中ホールにて過ごされておられるので昼食後は一部の方を除いて居室にて横になっていた		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表・チェック表を置き、誤薬・飲み忘れがないよう確認し、利用者の状態の変化は見逃さず対応できるよう心がけている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、利用者個人の能力にあわせた支援を行ない、食事摂取に問題がある方に関しては食べていただけるよう工夫配慮している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方の協力は無いが行事の計画をたて外出する機会を設けている。買い物は近辺だけではなく少し足をのばして隣の会津若松市まで出かけている	事業所行事(花見・あやめ見学・秋の遠足・記念館見学・ドライブ)等で外出の機会を多く企画し実践している。時には遠回りをしながら買い物などを楽しんでいる。好天時には事業所周辺の散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人がお金をもつことは家族と話し合い了解済みである。受診するとご自分で支払いをすませたり、買い物にいくとご自身で清算される。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されて居られる方、希望があればご家族への電話の取次ぎを行ない、年賀状等は個人個人で出していただくようお願いしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう廊下・居室に飾りつけをしたり、作品を展示し、行事の写真を展示し、職員と一緒に見て話題をつくる。廊下・食堂の境にはカーテンがあり光・気温によって利用している	建物の中心にある共用空間には机・椅子・ソファが設置され、畳コーナーもある。共用空間の両側が大きな掃き出しとなっており、片方はベランダに続いている。廊下には行事写真や利用者の作品が多く飾られており、和みのエリアとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どこでも自由に過ごしていただけるようソファ椅子の位置にも工夫しつつも寛げるスペースを確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	契約の際に居室の利用に関しては充分説明し、馴染みの物をお持ちくださるようお願いし、安心出来る部屋作りを家族と相談しながら行っている。	利用者は使い慣れた家具等を持ち込み、それぞれが個性的な居室となっている。家族の写真や手作りの作品が飾られ、利用者が落ち着いて生活できるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			